

＊ 「横浜観測 弐」と書かれた観測野帳を発見

アーカイブ室新聞 397号に「彗星(ウ氏)比較星観測野帳発見」、第398号に「長崎子午儀観測一」という観測野帳発見」という記事を書いた。今回は「横浜観測 弐」と書かれた「TRANSIT OBSERVATIONS」の観測野帳(写真1)を発見した。ここで「横浜観測 弐」という「弐」という文字が気になって、「彗星(ウ氏)比較星観測野帳」を見ると、何と「彗星(ウ氏)比較星観測野帳 三」と「三」が書かれており、「長崎子午儀観測一」には「長崎子午線観測 一」と「一」が書かれている。どうやらこの3冊は同種の一連の観測野帳と考えられる。

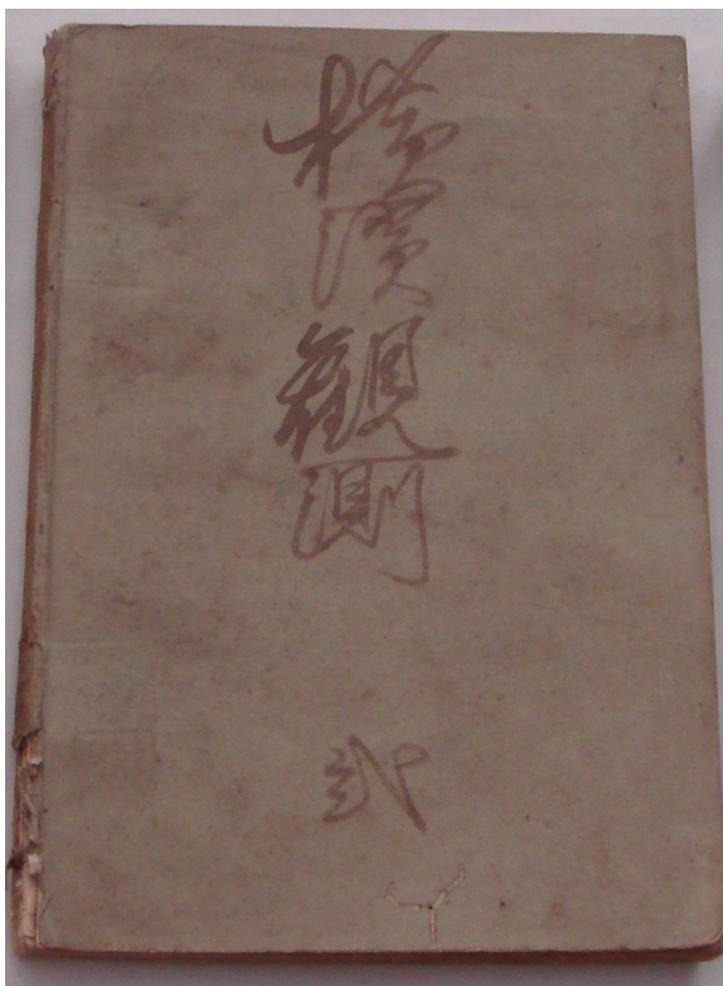


写真1 「横浜観測 弐」と書かれた観測野帳

この「横浜観測 弐」の野帳には日付の年号が入っていない。最初のページが1800年7月29日、観測の最後が1800年8月7日である。そして、「長崎子午儀観測 一」の最

後の観測が 1888 年 5 月 29 日、そして「彗星 (ウ氏) 比較星観測 三」の観測の最初に日付が 1892 年 2 月 13 日である。ならば、「長崎観測 式」の観測年は 1888 年～1891 年の間ということになる。また、この 3 冊の文字の特徴から、この 3 冊を使った観測者は同一人物で、「長崎子午儀観測 一」に観測者として署名のある「水原準三郎」氏であることが分かる。写真 2 がこの「横浜観測 式」の最初の観測のページである。とここまで書いてきたが、このページの一番上のメモ書きは明らかに、「ツヅキ」と読める。そして、これ等の観測野帳が一連のものと考えたが、「一」、「式」、「三」と書かれていることに疑問を持った。「一、二、三」あるいは、「壹、弍、参」なら確かに一連のものであろう。

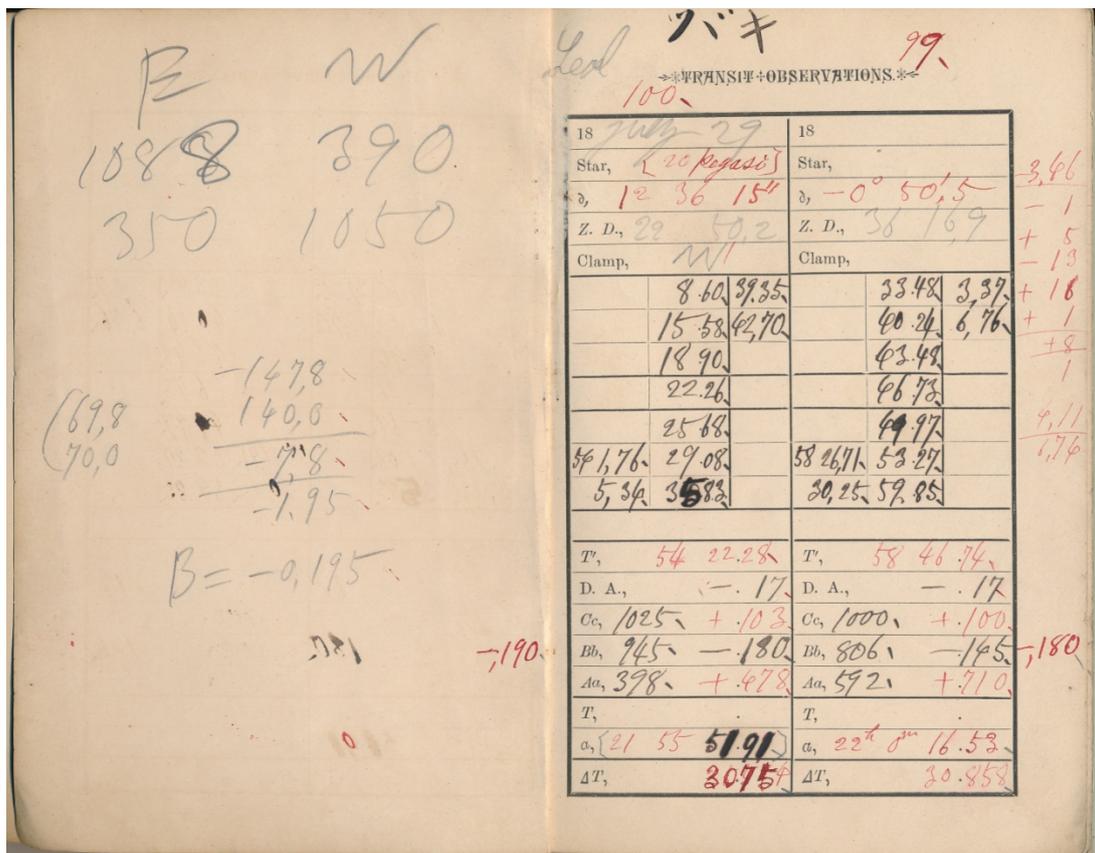


写真 2 「横浜観測 式」の最初のページ

これ等 3 冊の観測野帳を一連のものと考えたが、これはそうでないかもしれないと思いたった。しかし、この 3 冊の筆跡が同一であることは確かである。「横浜観測 式」で観測された期間は非常に短く、1800 年 7 月 29 日～8 月 7 日である。この横浜観測の野帳には「壹」、「参」・・・が存在するかもしれない。この 3 冊が、連続した「一、弍、三」というのはやはり無理があるのかもしれない。もっと史料が発掘されることを期待したい。

「横浜観測 式」で観測された星の名前がはっきりしているのは、20 Pegasi (2 回)、 α^1 Capricorni、 α^2 Capricorni、 ζ Cygni (2 回)、 χ Herculis である。

この「横浜観測 式」の観測野帳のすべてのページをスキャナーで取り込み、収蔵データとしたので閲覧をご希望の方にはお送りできる。筆者は子午儀の観測経験がないので、

この観測野帳を見て、含まれている情報についての知見が増えることを期待している。これ等の3冊が一連のものと思われたのは写真3、写真4を見ていただければうなずかれることと思う。



写真3 左から長崎子午儀観測 一、横浜観測 貳、彗星(ウ氏)比較星観測 三

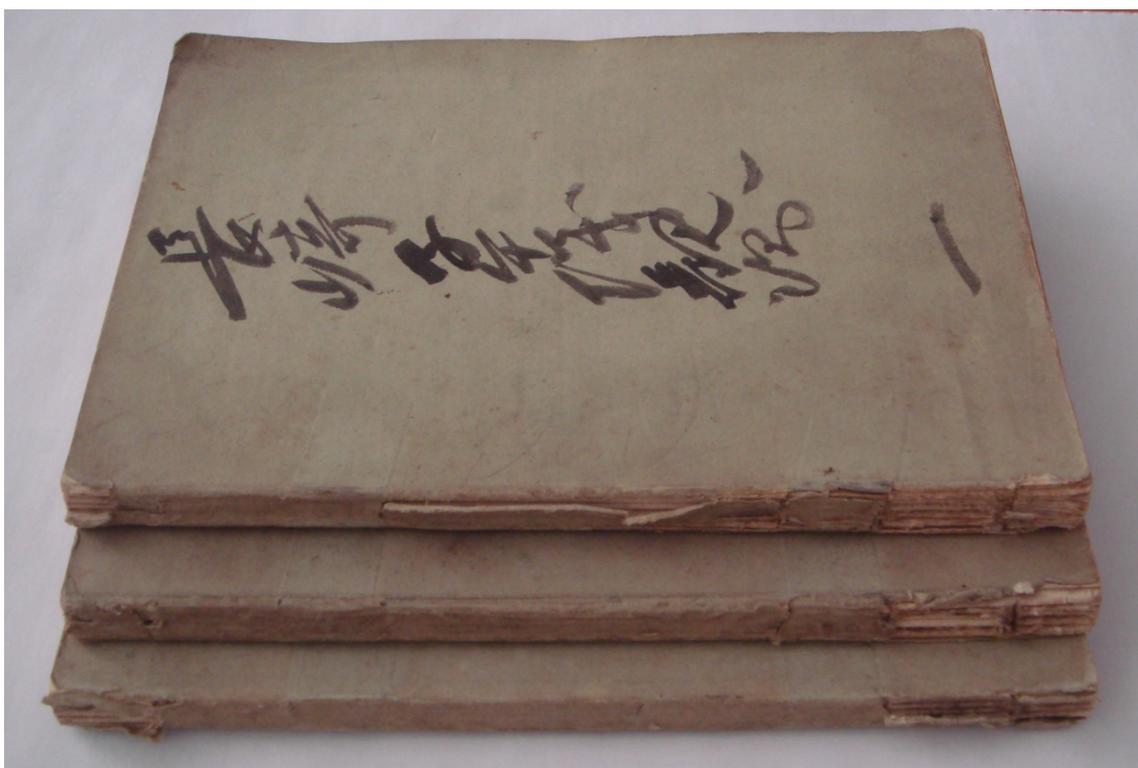


写真4 野帳の傷み具合など ほとんど同じである。